



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第24号

令和4年3月24日発行

文責 校長 宮地 浩幸

全国スピーチコンテスト1位

前回の学校だより(第23号)で、全国スピーチコンテストの全国審査に2年連続で残った本校中学生の快挙をお伝えしましたが、それが見事全国第1位に輝いたという報告が3月15日(火)の朝に、インターネット上にアップされました。

言葉は良くないかもしれませんが、信じられない光景です。それくらい、難しいことをやってのけたのだという感動がありました。佐賀県1の小さな学校、中学生が1名しかいない学校で、全国大会の1位を獲得したのです。

審査委員長の講評の中で、文化祭での劇のことが受賞の1つの要因になったことが示されましたが、実際に子ども達全部で作上げた劇を思い出すと本人の経験値に基づくスピーチであり、審査員にも十分届くものであったことは実感できます。それほどやったことが充実していたのだという証だと思います。

さて、受賞が決まったその朝、児童生徒全部に知らせたく、臨時の集会を行い、みんなで受賞を称えました。その中で、今回の受賞に関して、文化祭で演劇を行った全員が、間接的にはありますが、受賞に寄与したこと、そして、本校の児童生徒であれば、郷土の見守りや応援が非常に手厚いために、みんなが同じような素養を有していることを自覚し、今後の学校生活において、勉強やスポーツを精一杯頑張るよう励ましました。

今回の奇跡的な快挙は、本人の努力はもちろんですが、地域、友達、学校などが本人をしっかり後支えていたことが十分反映されたものだとして誇らしく感じます。子ども達に郷土を誇りに思える自覚が芽生え始めているのであれば幸いです。



唐津西高吹奏楽部音楽会

3月18日(金)の午後に、本校体育館で唐津西高吹奏楽部がコンサートを披露してくれました。高校生の上手で力強い演奏は、私たちに感動を与えてくれました。教育の場において、豊かな心を育むために感性を磨き上げる取り組みは大切だと思います。子ども達も音楽や図工、美術の授業で楽器を奏でることや歌を歌うこと作品を作ることなどを行います。もちろんそれぞれの教科で技法を学ぶことも大切ですが、そこでは感性を高め、豊かな心の育成に寄与しているのだと考えます。それでも、「学ぶ(まなぶ)」は「真似ぶ」を語源とするようで、お手本をまねるということが大切です。そういう意味で、島の子ども達にもお手本になる文化に触れさせたいといつも思っています。昨年度は、「落語」に触れました。しかし本年度はどうしようかと迷っていると唐津西高校の校長先生(校長とかつて同じ学校に勤めたことがある間柄です。)から今回のお誘いがあり、実現に至りました。

今回の演奏会では、子ども達がよく知っているアニメソングやリズムカルなサンバなどが多く、子ども達が自主的に手拍子始める場面もあり大変盛り上がりました。また、小中学校ではなかなか目にしない金管楽器（トロンボーン、チューバ、フォルンなど）を高校生が説明し、実際に弾いてくれるとその音がとても新鮮に聞こえました。子ども達の感想にも「チューバの音がすごかった。」、「どの楽器もカッコよかった。」などがありました。

また、マスコミからの取材もあり、3月22日の佐賀新聞にも掲載されました。今回の演奏会が子ども達や地域にいい影響を与えてくれたことを強く感じます。



新たな学年に向けて

3月24日（木）に修了式を終えて、本年度の加唐小中学校での教育活動が終了しました。子ども達は1年間よく頑張りました。昨年度に比べて子ども達の年齢層が大きく若返り、学校としても少し戸惑ったところがありましたが、児童生徒一人ひとりが自分ができることに本気で向き合って頑張った痕跡は十分に残せています。それでも、課題も多く見つかりました。特に学習面では、それぞれに努力を要するところが学習状況調査やCRT検査で具体的に見つかっています。春休みは新たな学年に向けて、しっかり準備をする期間です。学習面での課題を次の学年に残すことの無いように規則正しい生活を心掛け、復習中心の家庭学習に期待します。

お世話になりました。

令和2年4月1日に、加唐小中学校校長を拝命して、2年の月日が経ちました。この2年間はコロナ禍でもあり、従来のような教育活動ができませんでした。それでも、子ども達の学びや成長の跡は十分に実感できます。今年度末の中学生の全国スピーチコンテスト第1位は、そのことを示す典型的な証となりました。子ども達の活躍は学校に名誉を与え、子ども達の元気な様子は地域の皆様に元気を与えたと思います。そういう意味で、無事に本校での勤務を終えることに安堵するところです。

さて、新年度からは新しい校長やスタッフの下に新鮮な加唐小中学校の活動が始まると思います。職員は変わりますが、本校の永遠のめあて「つ・ば・き」が示す、「知、徳、体のバランスが取れた児童生徒の育成」は不易なものであり、決して変わることはありません。離島のへき地の学校であっても教育基本法に記載される教育の機会均等が大原則ですので、少人数の強みを生かし、来年度も子どもたち一人ひとりのニーズに合った教育がなされると期待しています。新年度の加唐小中学校の益々の発展のために皆様の学校に対するご理解とご協力を宜しくお願いします。

最後に、この2年間で自分（校長）なりに振り替えると素直で一生懸命頑張る子ども達の様子に楽しいばかりの日々を送ったように思います。子ども達には何でも一生懸命に頑張ることができる環境を設定してやるのが最大の学校の務めだと思っていました。文化面での全国大会での上位入賞やスポーツ面では九州大会出場など陸部の大きな学校でもなかなか達成することができないような頑張りは、わずか全校の児童生徒数が6名の小さな学校から出るなどとは至難の業です。それが現実起こっていることは学校の名誉であり、先生方のご指導や保護者の協力、地域の協力の賜物だと感謝の言葉もありません。本当にありがとうございました。4月からは、新しい学校へ赴任しますが、基本どこの子ども達も同じだと思っています。地域に関係のない不易な教育を大切に、加唐小中学校に負けない学校を目指したいと思っています。短い間でしたが大変お世話になりました。